No. 5 0　2026 年 1 1 月 8 日

終 末 前 々 主 日 礼 拝

説 教 『 真 の 幸 い 』

吉 丸 初 美 師

司 会　吉 丸 初 美 さん

奏　楽　自 動 演 奏 機

招　詞　Ⅱコリント人への手紙 3章6節

主 の 祈　（ 5 6 4 ）

讃　詠　5　4　6

交 読 詩 編　詩　4　4　編

祈　祷

讃 美 歌 21 － 4　5　1

使 徒 信 条　（ 5 6 6 ）

聖　書　ルカ福音書 15章 11～32節

説　教 (口語訳115頁、新共同訳139頁)

『 真 の 幸 い 』

祈　祷

讃 美 歌 21 ― 5　2　3

献　金

感　謝

報　告

頌　栄　5　4　4

祝　禱

後　奏

次週の礼拝（終末前主日礼拝）

説 教 『 主 の 招 き に 応 え る 』

ルカ福音書6章27節～38節

招　詞　ペテロの第二の手紙 3章 14節

交読詩篇　5　0　編

讃美歌　546、21－448、21－465、539

礼　拝　当　番

今週　8 日 司会 吉 丸 初 美 さ ん

次週　15 日 司会 安 部　愛　さ ん

会 堂 清 掃 奉 仕

本　日　の　集　会

★教　会　学　校　　午前9時45分

★コーヒータイム　　礼拝後～

それぞれの思いを語り合いましょう。

★11月第三回食事会　12時～14時

§広島キリスト教社会館バザー　10時～14時

社会館の働きを覚えてお祈りしましょう。

今週の集会/スケジュール

★西中国教区教職研修会　11月9日(月)15時～11月10日(火)15時　会場：山口周陽教会

❁めぐみ幼稚園礼拝　11月13日(金)　10時30分～

感謝祭礼拝・幼児祝福式を行います。

次週以降のスケジュール等

● レコードコンサート　11月15日（日)13時～15時30分

チャイコフスキー　ピアノ三重曲　イ短調

《ある偉大な芸術家の思い出のために》

交響曲　第6番　ロ短調《悲愴》作品　74

★聖書を読む会　11月17日（火）10時30分～12時

§ 広島拘置所教誨奉仕　11月18日（水)13時30分～

施設にある方の信仰生活を覚えてお祈り下さい。

❁めぐみ幼稚園礼拝　11月20日(金)　10時30分～

❁めぐみ幼稚園作品展　11月21日(土)

10時～12時・13時～14時

★広島西分区交換講壇　11月22日（日)10時30分～

今年は広島観音町教会の塩見和樹牧師が説教を担当してくださいます。礼拝後の交わりの時食事を用意いたします。吉丸師は広島観音町教会で説教奉仕します。

§ 山根眞三師　11月22日(日)広島府中教会の礼拝で説教奉仕をされます。

※高橋圭子さんが12月3日入院4日左右股関節の手術を受けられます。高橋さんのことを覚えてお祈りください。

先 週 の 集 会	男	女	計
教 会 学 校	0	0	0
主 日 礼 拝	2	5	7

◇今週の説教要旨(終末前々主日礼拝)

『 真 の 幸 い 』 ルカ福音書 19章1～10節

ルカ福音書15章は失われたものの回復というテーマが三つのたとえ話の中で記されその中でも今日の箇所は放蕩息子のたとえと言われる大変有名な物語である。福音は喜びの訪れであり、福音はイエスが罪人を神の祝宴に招待することである。そして、これによって貧しい人には神の助けが約束される。さらにこのことが罪の赦しを告げる福音において成就することをルカは語った。失われた者が生き返り、見つけられた。そして、元気に連れ戻された、ということは罪の赦しと神との交わりの回復を暗示する。そこに、イエスの十字架の出来事がある。人生では自分の思い通りにならないことが多くあるものだ。そうした時、私たちは見境なく自暴自棄になる時があるかもしれない。丁度、放蕩息子のように。しかし、この世の快楽を求める生活は長くは続かない。そこで待っているのは、身をもって初めて体験する疲弊と困窮。父のところにいた時のこと、そこで自分は生きていたことを思い出し、我に返る。そして、もう一度父と共にいることを求めた。そんな弟を父は快く受け入れる。しかし、兄は父の側にいて豊かな恵みの中にあったにもかかわらず、父の弟への愛を理解できなかった。父の喜びを理解できなかった。しかし、父はその兄をも愛した。でもその愛は拒絶された。それは、まるでイエスを十字架につけた姿だった。父は兄の反対があっても弟を迎え入れた。丁度、イエスが社会の周縁に置かれている人々と共に食事をするのをやめなかったように。私たちは兄のようになってはいないだろうか。自分を見つめ直すことが求められているのか。神から愛されているのではないか。神から離れては生きていけないことを知っているのか。放蕩息子の姿は私たちにこう問い掛ける。傷つけた者を赦し無条件に迎え入れて「戻ってくる」という一歩を共に喜ぶ姿。一度の失敗をもって人の価値を決めない姿。その父の姿に将来の希望が見える。この神の愛をしっかりと見つめ歩んでいきたい。